

# 水道事業の現状と課題、将来について

【千早赤阪村】

(大阪広域水道企業団)

# ■村の水道の状態をのぞいてみよう～施設の耐震化状況や財政的な指標を府内で比較～

## 現状と課題

### 1 基本情報

- 1.1 現状
- 1.2 一日最大給水量と自己水率の概要
- 1.3 水道施設の配置状況

### 2 府域における千早赤阪村の状況

- 2.1 各指標の大阪府平均との比較
- 2.2 府域における千早赤阪村の各指標の状況

# ■村の水道ってこれからどうなるの？ ～今後の計画や水道料金のイメージを確認～

## 千早赤阪村の計画

### 3 千早赤阪村の今後の計画

- 3.1 水道施設の耐震化計画の策定状況
- 3.2 老朽管の更新に関する状況
- 3.3 耐震化計画の内容
- 3.4 更新需要見込み額の見通し
- 3.5 収支の見通し

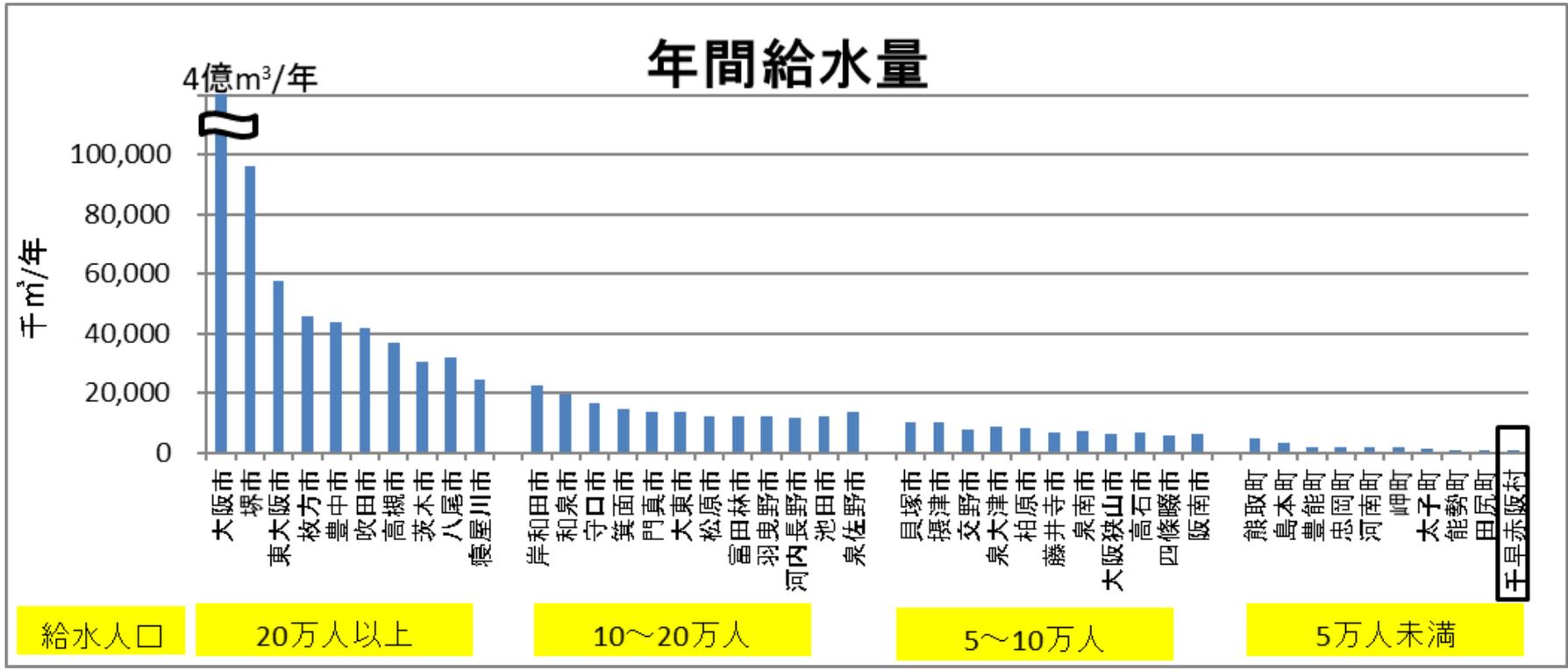
### 4 まとめ

# 1 千早赤阪村の基本情報

## 1.1 千早赤阪村の現状(2016年度)

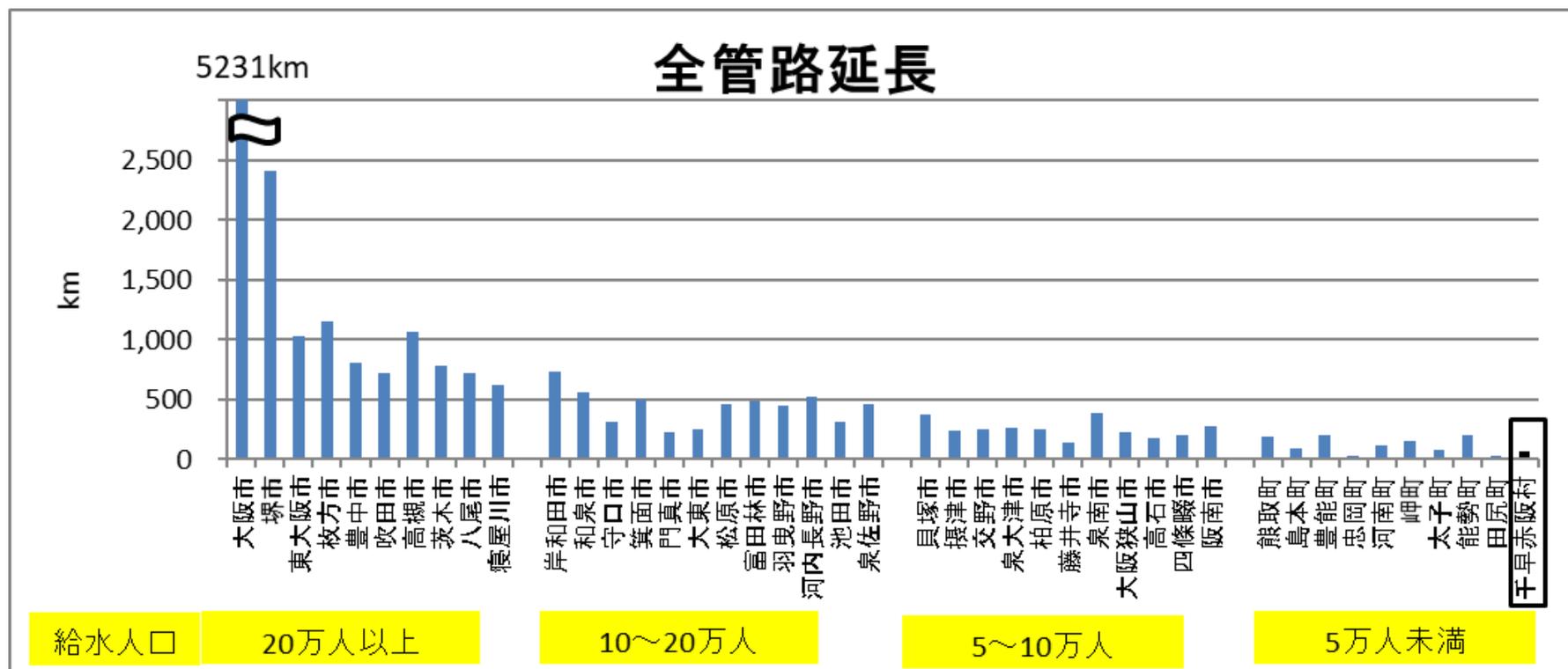
### (1) 年間給水量(大阪府の水道の現況より)

・年間給水量は0.8百万m<sup>3</sup>です。(43事業体中43番目/降順)



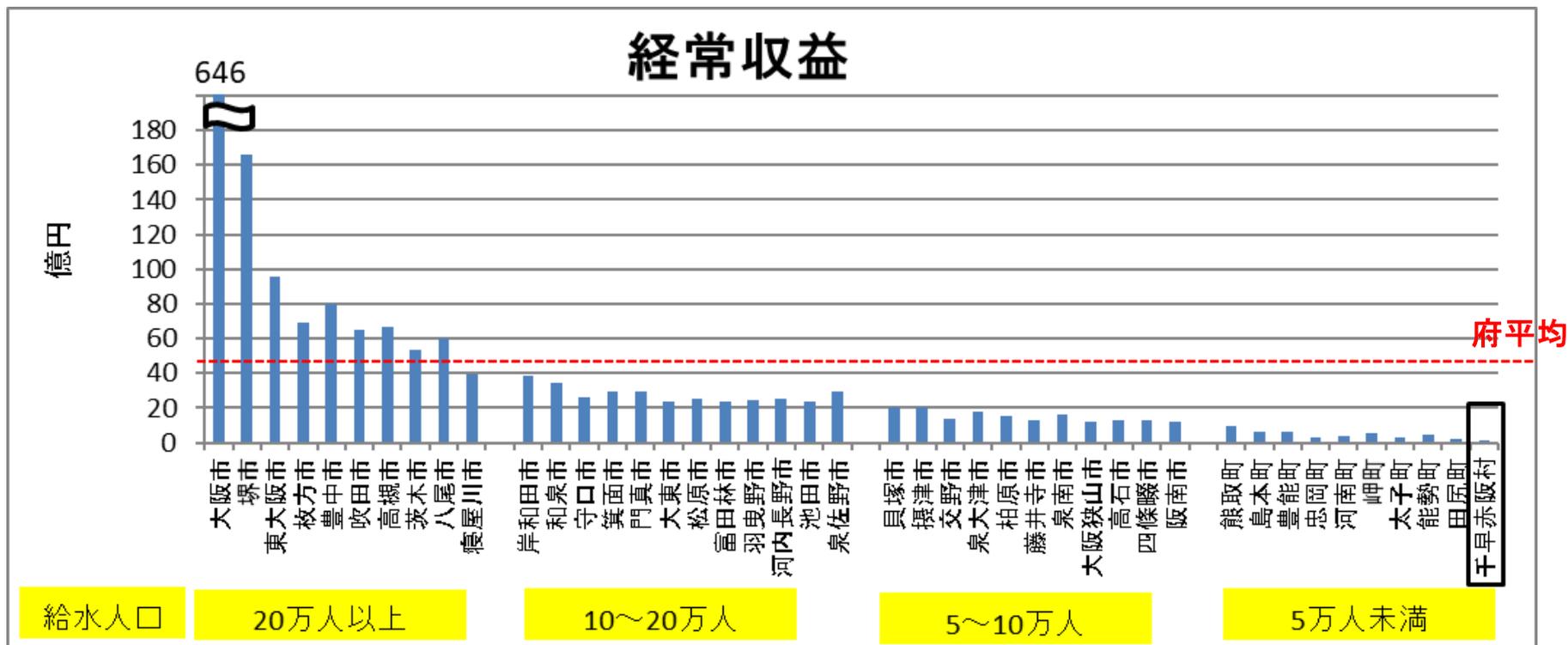
## (2) 全管路延長(大阪府の水道の現況より)

- ・全管路延長は約71kmです。(43事業者中41番目/降順)



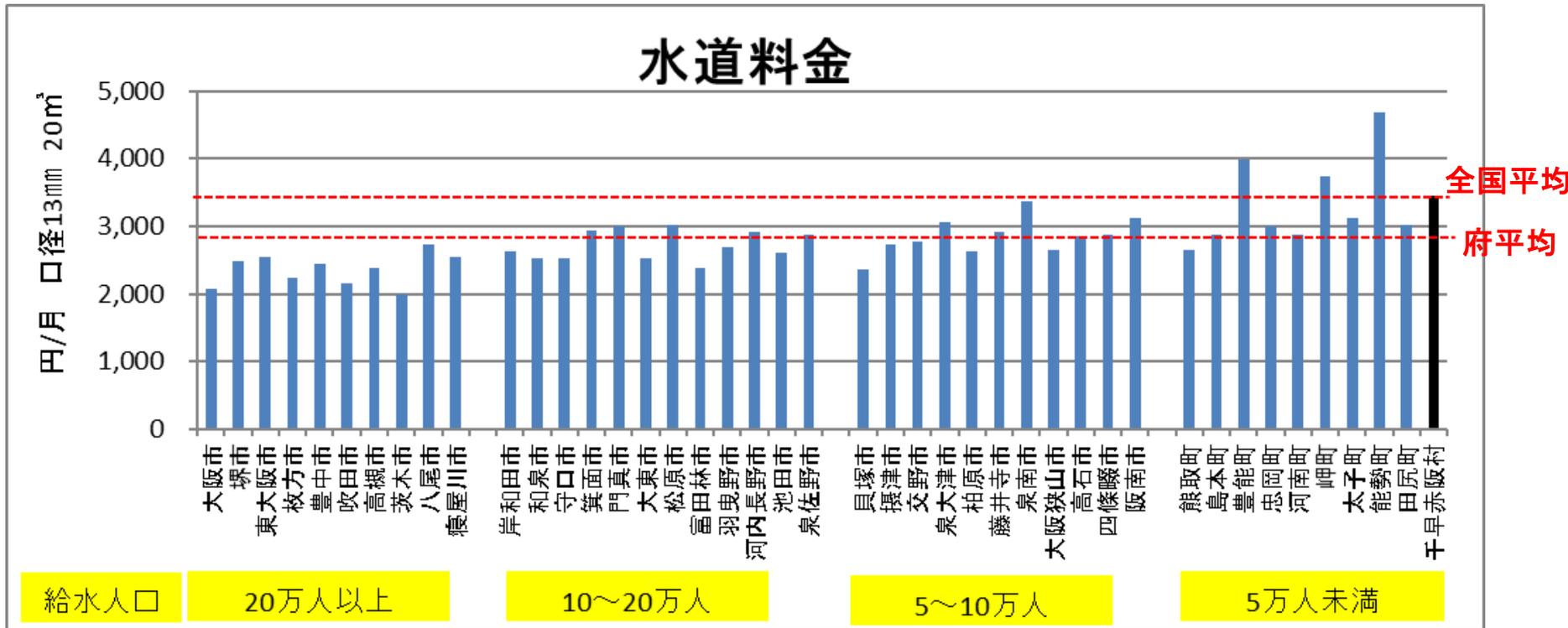
### (3) 経常収益(地方公営企業決算状況調査より)

- ・経常収益は約2億円です。(43事業体中43番目/降順)



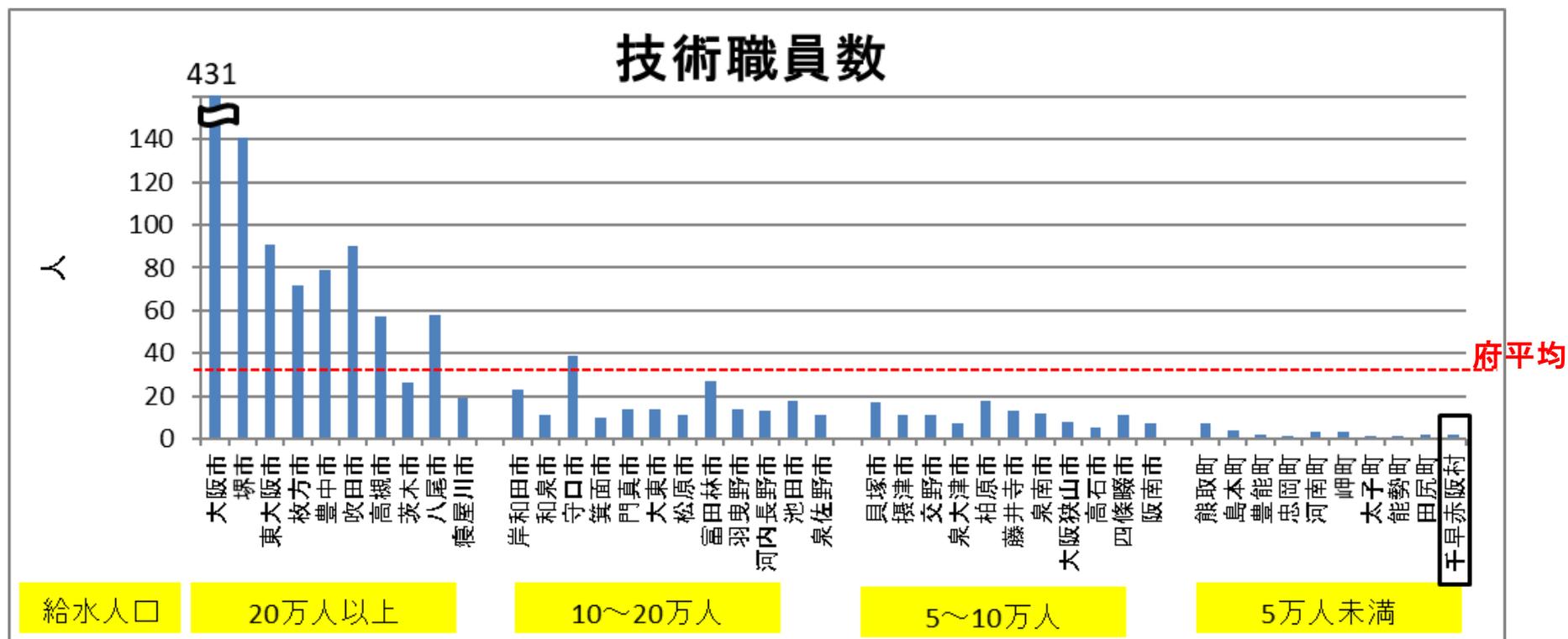
## (4) 水道料金(大阪府の水道の現況より)

- ・家庭用(口径13mm 20m<sup>3</sup>)の一月あたりの水道料金は3,448円であり、府平均2,831円を上回っています。(43事業体中40番目/昇順)



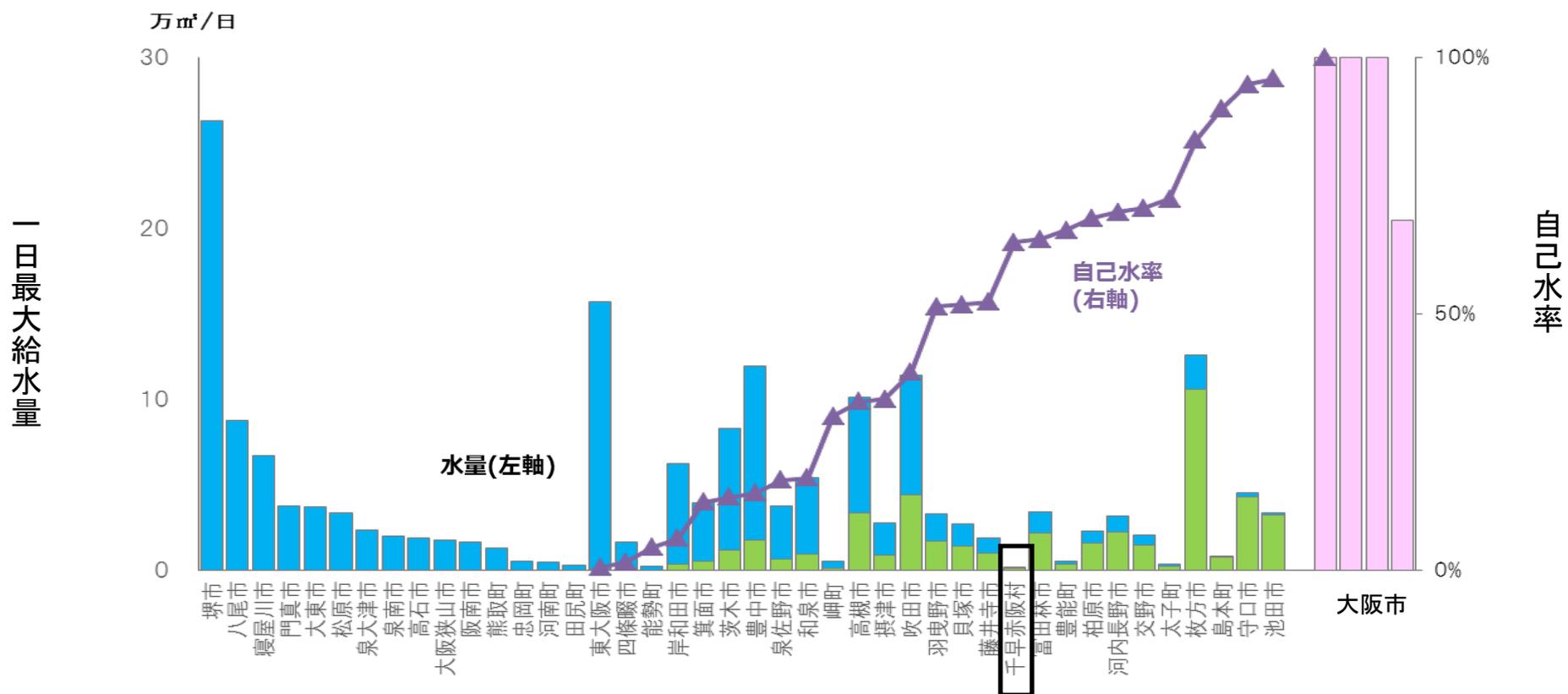
## (5) 技術職員数(大阪府の水道の現況より)

- ・技術職員は2人であり、府平均を下回っています。

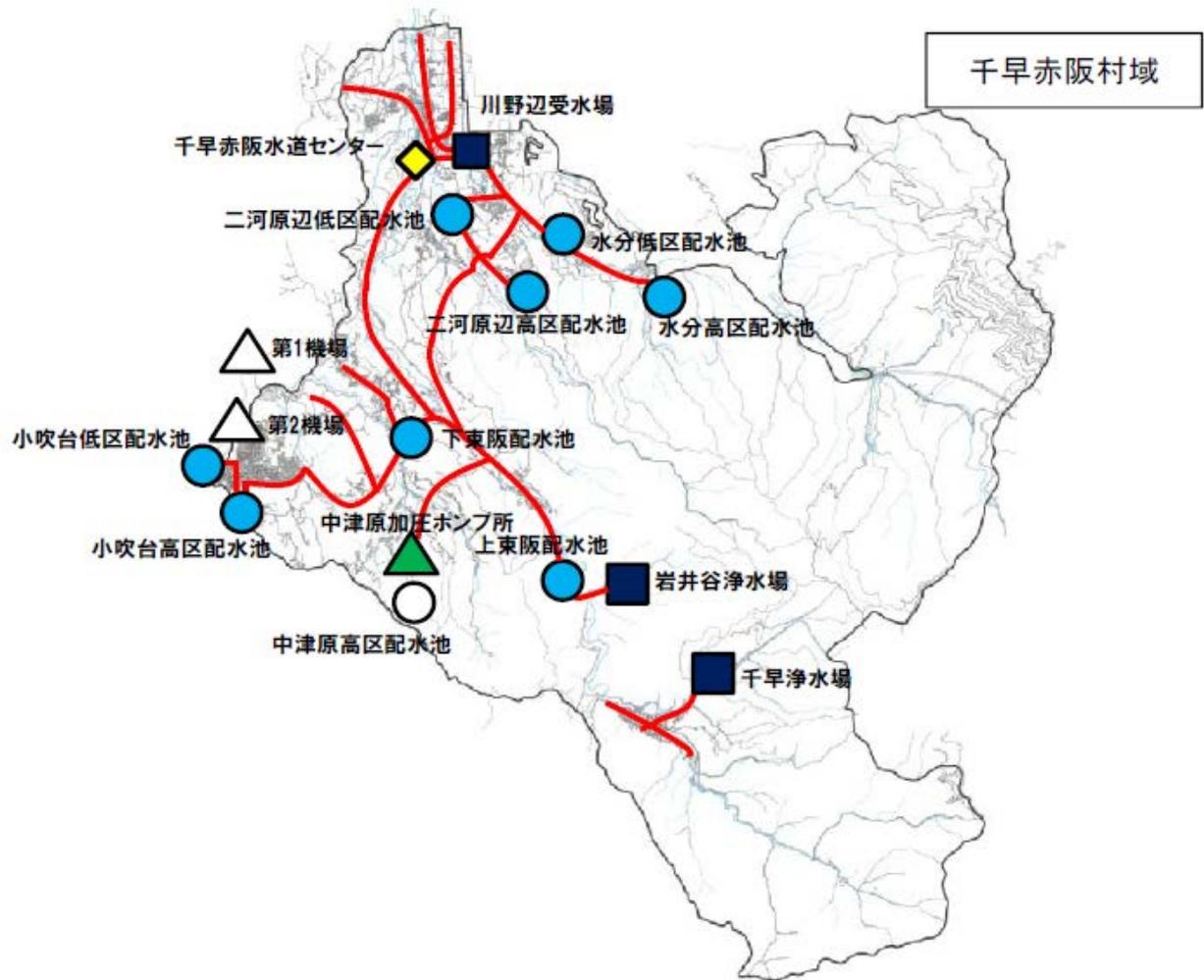


# 1.2 一日最大給水量と自己水率の概要(2016年度)

・水源は、表流水を水源とした岩井谷浄水場及び千早浄水場の自己水と、淀川を水源とした大阪広域水道企業団からの浄水受水で賄っており、このうち企業団受水は総配水量の約36%を占めています。



# 1.3 水道施設の配置状況



浄水場	名称	岩井谷浄水場	千早浄水場
	浄水能力	1,720 m <sup>3</sup> /日	320 m <sup>3</sup> /日
配水場	場数、容量	11 場 6,110 m <sup>3</sup>	
管路	延長	71.1 km	

## 2 府域における千早赤阪村の状況

### 2.1 各指標の大阪府平均との比較(2016年度)

黒:府平均を下回っている  
(25%以上)  
灰:府平均をやや下回っている  
(0~25%)  
白:府平均を上回っている

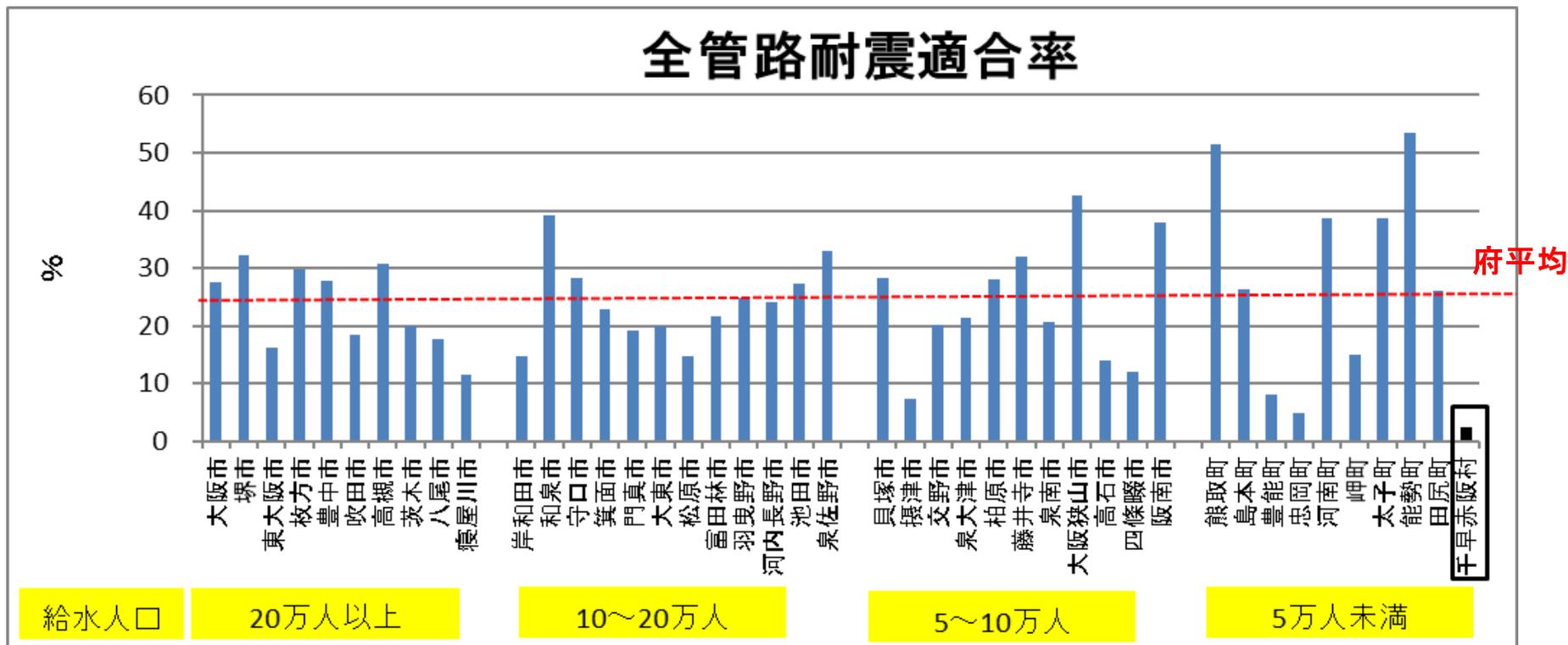
項目	指標	府平均との比較
耐震化関係	①全管路耐震適合率 管路の地震災害に対する安全性、信頼性を表す指標。高い方が望ましい。	黒
	②基幹管路耐震適合率 基幹管路の地震災害に対する安全性、信頼性を表す指標。高い方が望ましい。	黒
	③老朽管率 ※ 法定耐用年数(40年)を超えた管路の割合。一般的には、低い方が望ましい。	黒
	④管路更新率 管路更新の度合いを表す指標。一般的には、高い方が望ましい。	白
	⑤浄水場耐震化率 浄水施設の地震災害に対する安全性、信頼性を表す指標。高い方が望ましい。	黒
	⑥配水池耐震化率 配水施設の地震災害に対する安全性、信頼性を表す指標。高い方が望ましい。	黒
経営関係	⑦給水原価 ※ 有収水量(料金の対象となった水量)1m <sup>3</sup> あたりにかかる費用を表す指標。 一般的には、低い方が望ましい。	黒
	⑧経常収支比率 単年度の収支が黒字であれば100%以上となる指標。一般的には、高い方が望ましい。	灰
	⑨企業債残高対給水収益率 ※ 企業債残高の規模を表す指標。一般的には、低い方が望ましい。	黒
効率性	⑩施設利用率 水道施設の利用状況や適正規模を判断する指標。一般的には、高い方が望ましい。	灰

※府平均を上回っているものを黒、灰としています。

## 2.2 府域における千早赤阪村の各指標の状況(2016年度)

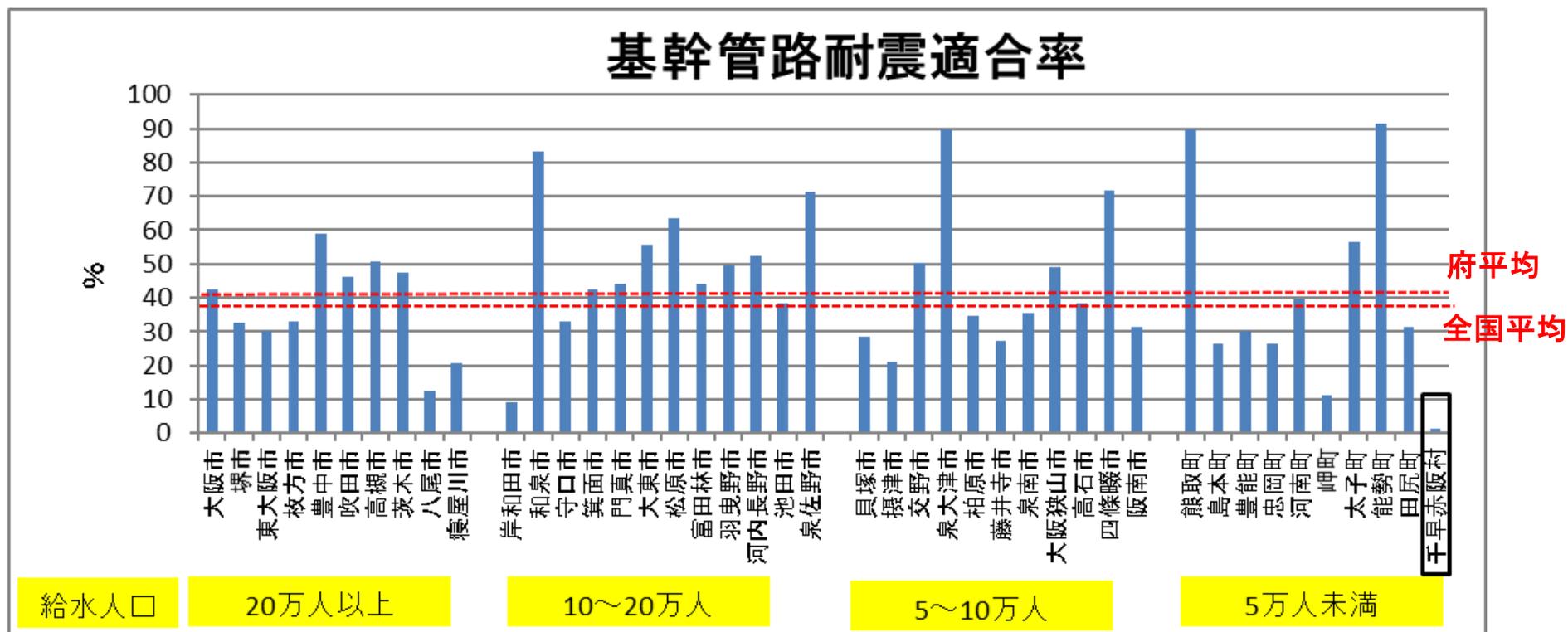
### ①全管路耐震適合率(大阪府の水道の現況より)

・全管路の耐震適合率は2.45%であり、府平均25.6%を下回っています。



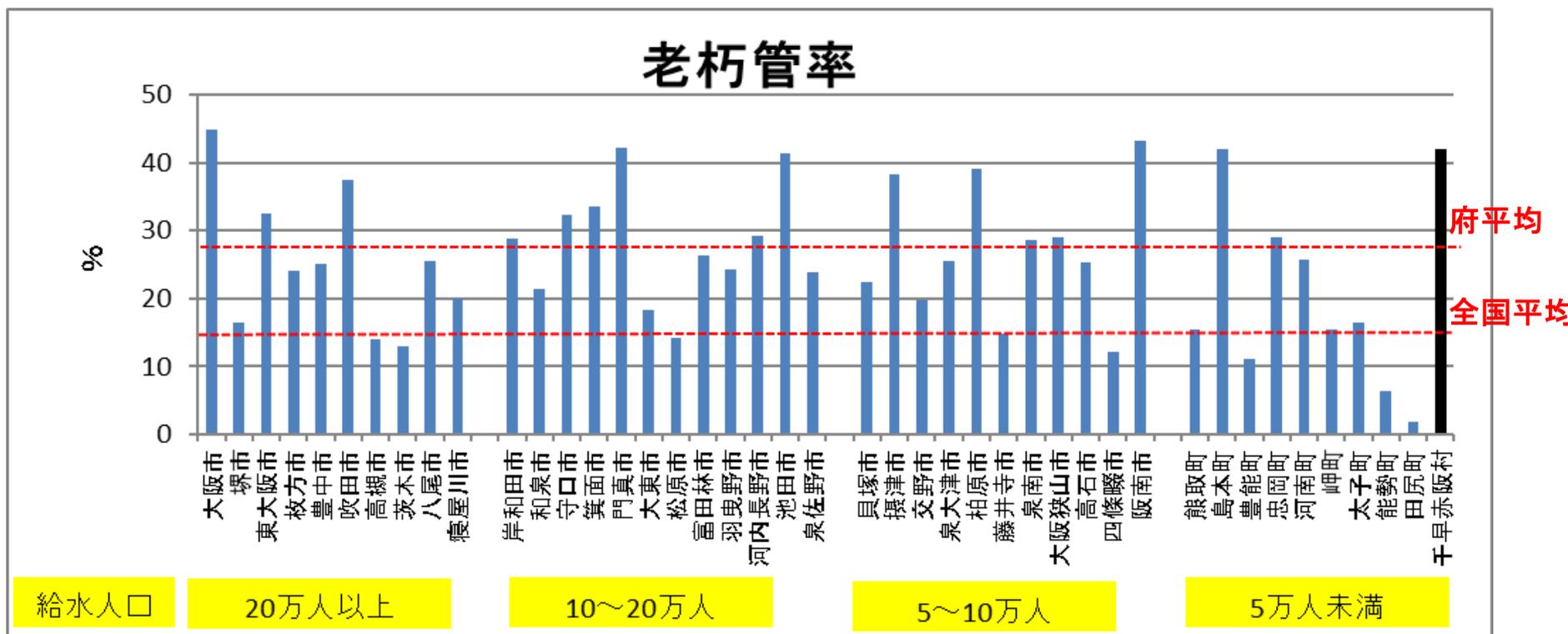
## ②基幹管路耐震適合率(大阪府の水道の現況より)

- ・基幹管路の耐震適合率は1.4%であり、府平均41.1%を下回っています。(43事業体中43番目/降順)



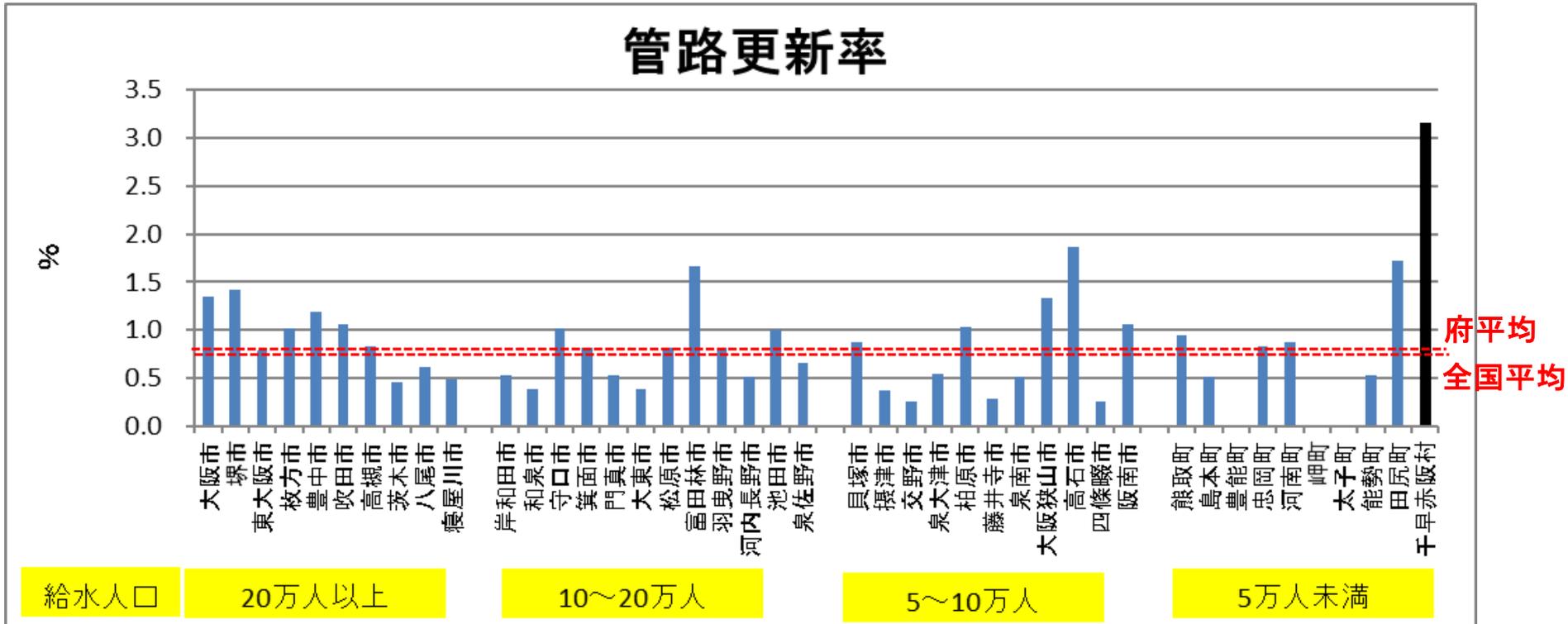
### ③老朽管率(大阪府の水道の現況より)

- ・老朽管率は42.0%であり、府平均28.6%を上回っています。  
(43事業体中5番目/降順)



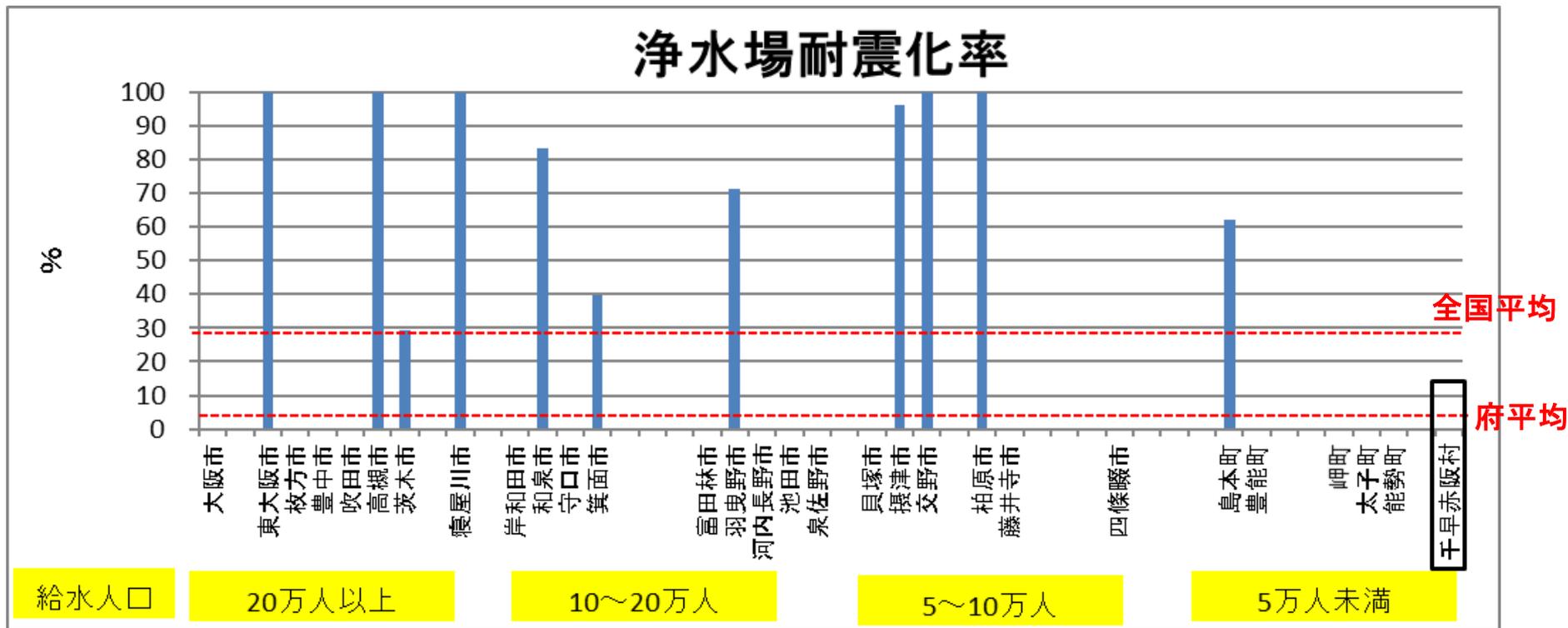
#### ④管路更新率(市町村経営比較分析表より)

・管路更新率は3.16%であり、府平均0.82%を上回っています。



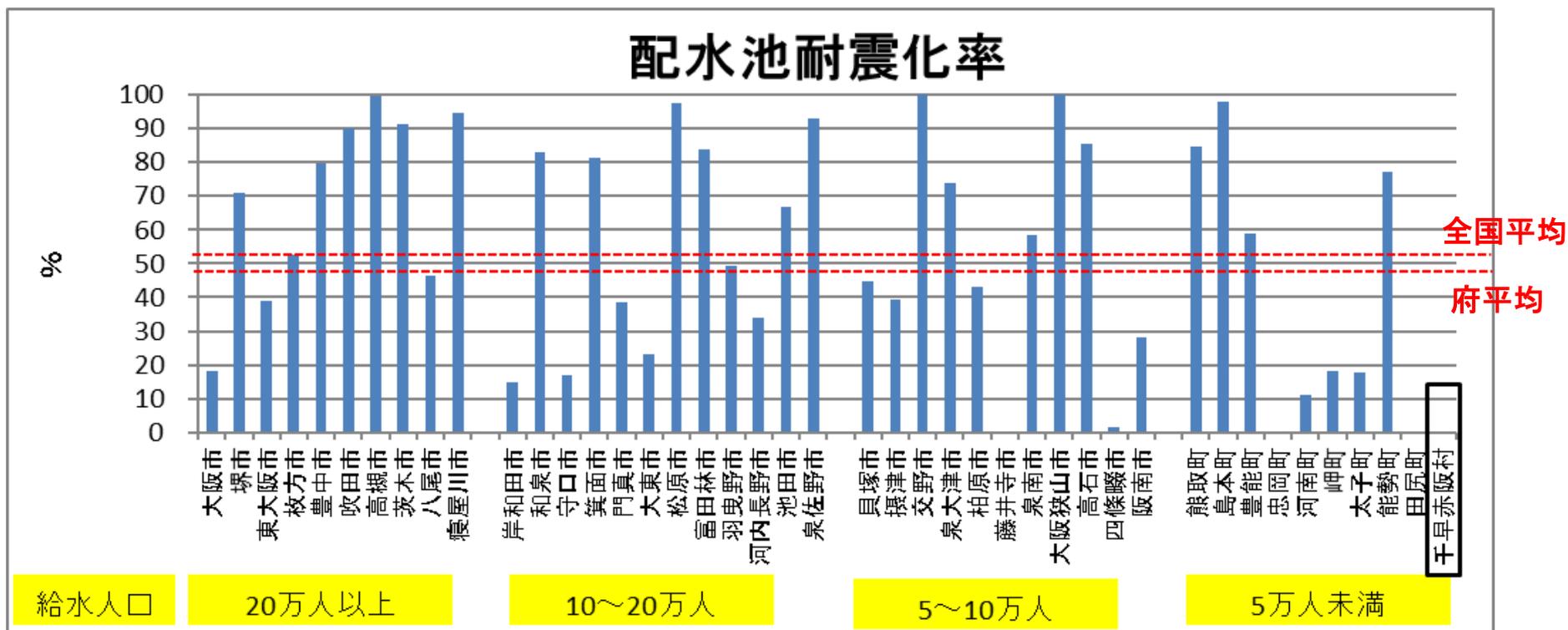
## ⑤浄水場耐震化率(大阪府の水道の現況より)

・浄水場の耐震化率は0%です。



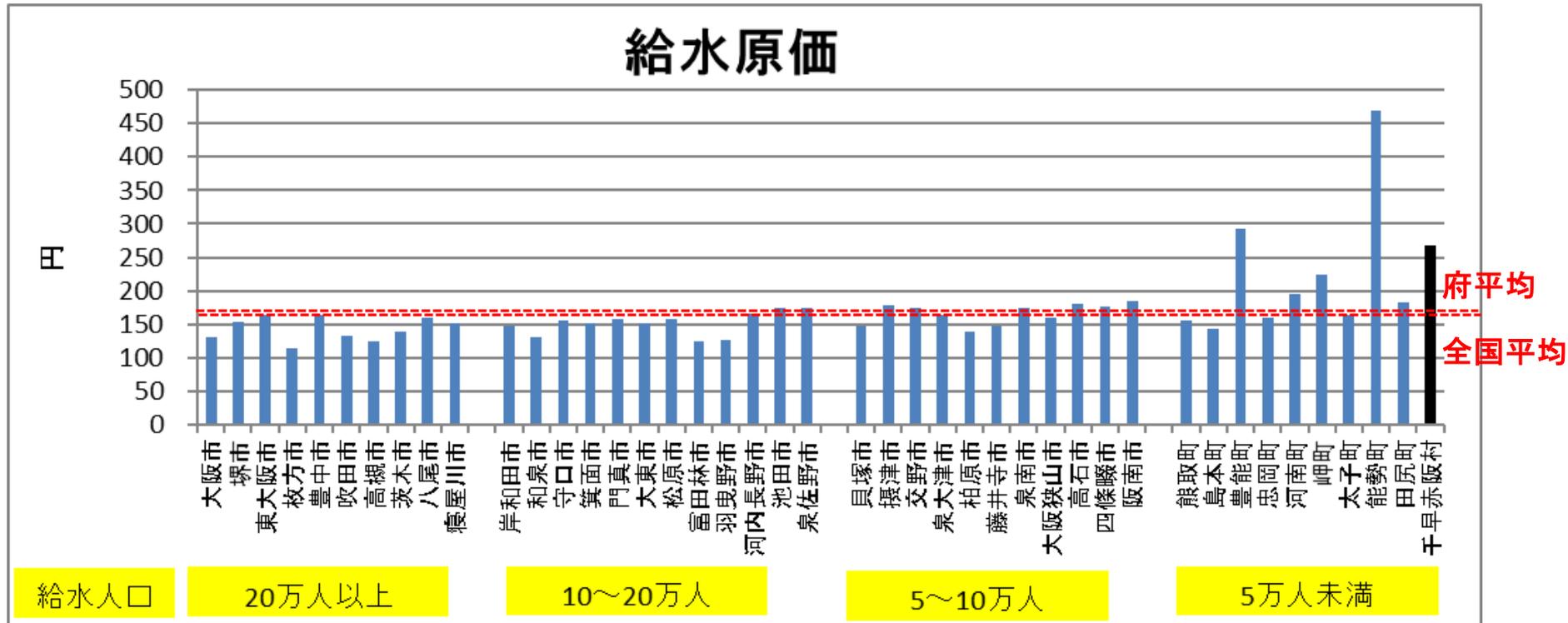
## ⑥配水池耐震化率(大阪府の水道の現況より)

・配水池の耐震化率は0%です。



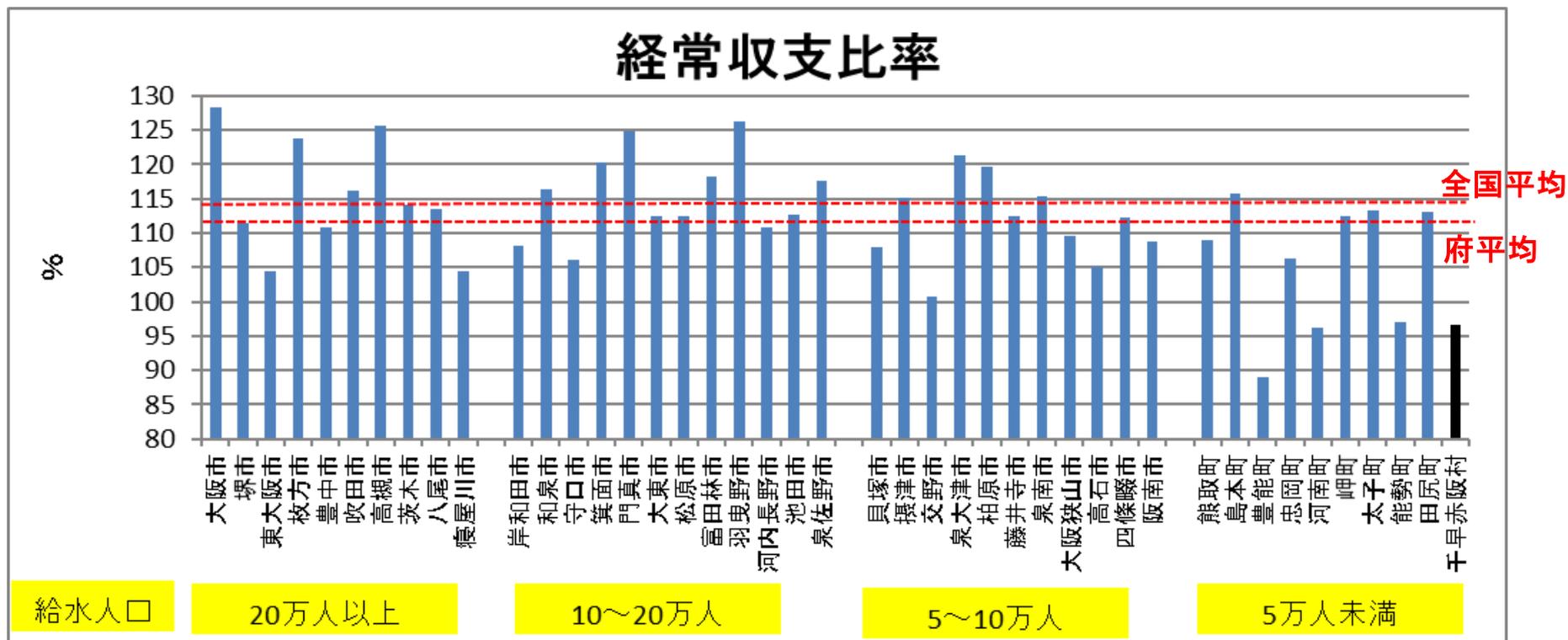
## ⑦給水原価(市町村経営比較分析表より)

- ・給水原価は267.6円であり、府平均170.8円を上回っています。  
(43事業体中41番目/昇順)



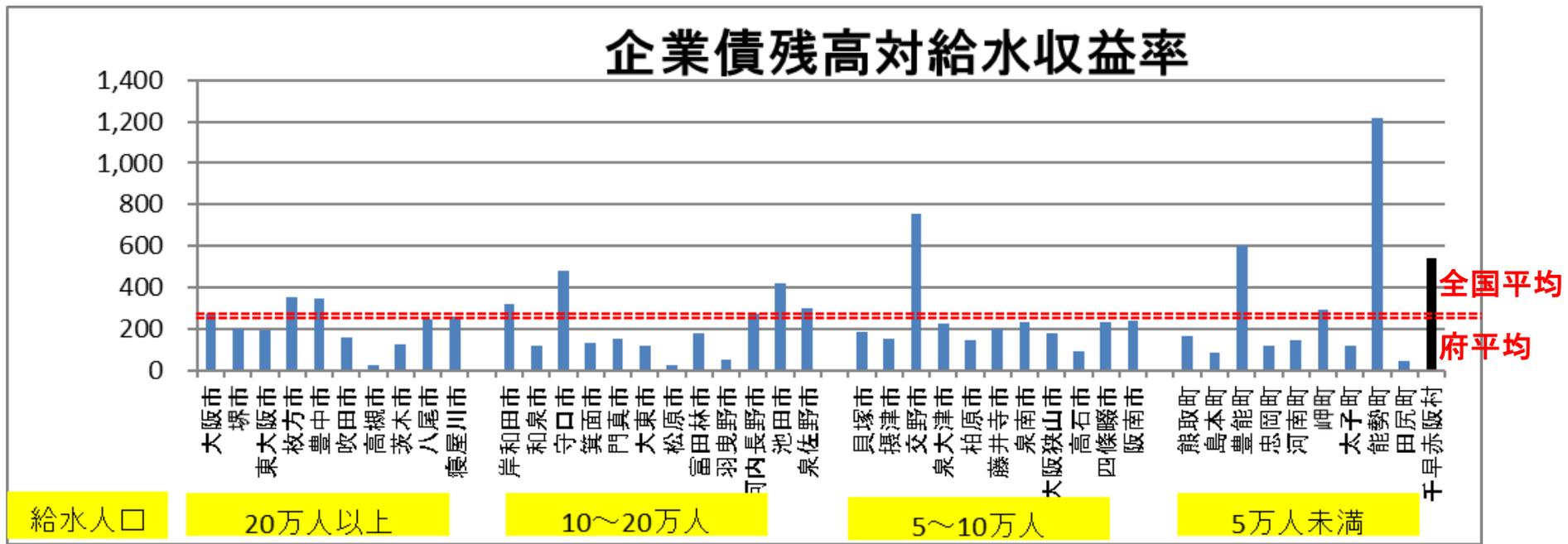
## ⑧ 経常収支比率(市町村経営比較分析表より)

- ・経常収支比率は96.56%であり、府平均111.98%および単年度黒字を示す100%を下回っています。



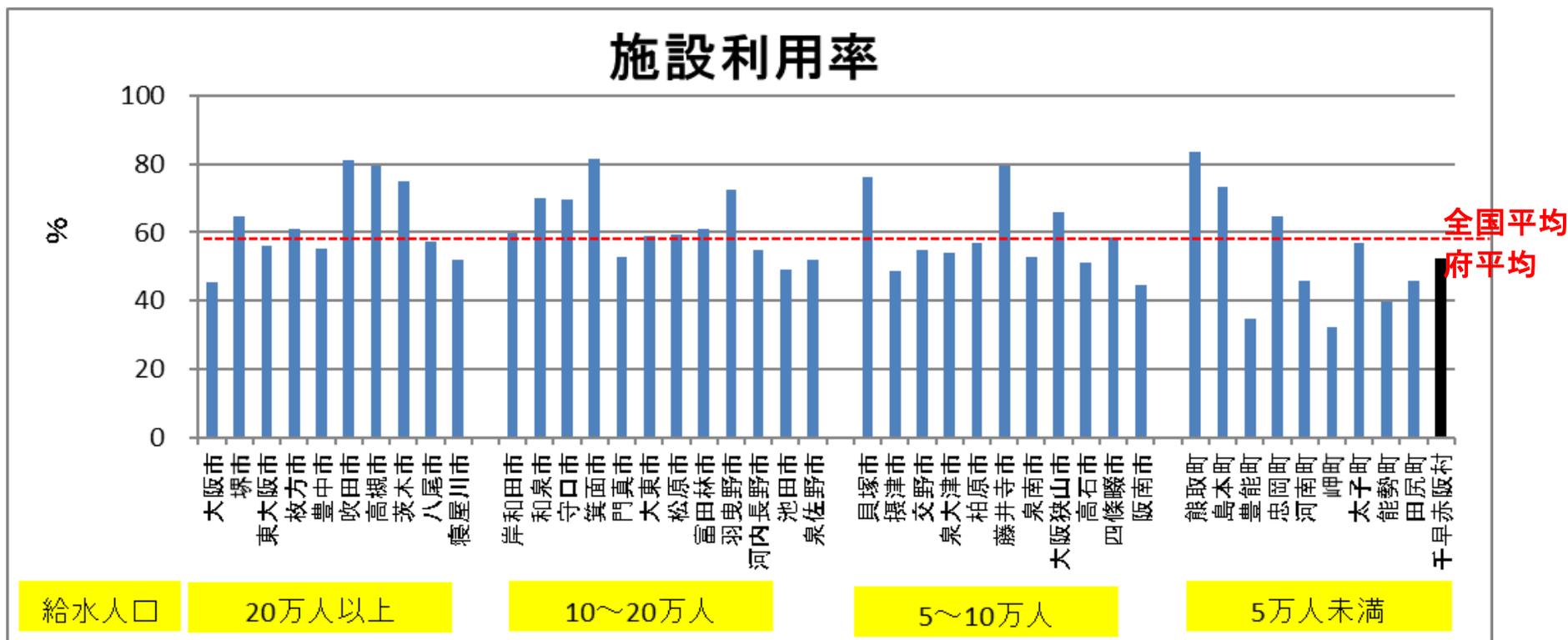
# ⑨企業債残高対給水収益率(市町村経営比較分析表より)

・企業債残高対給水収益率は541.5%であり、府平均250.5%を上回っています。



## ⑩施設利用率(市町村経営比較分析表より)

・施設利用率は52.5%であり、府平均58.4%を下回っています。



### 3 千早赤阪村の今後の計画

- ・2017年4月に大阪広域水道企業団と統合し、大阪広域水道企業団による経営が始まっています。

### 3.1 水道施設の耐震化計画の策定状況 (2018年度調査結果)

事業体名	大阪市	堺市	東大阪市	枚方市	豊中市	吹田市	高槻市	茨木市	八尾市	寝屋川市	岸和田市	和泉市	守口市	箕面市	門真市	大東市	松原市	富田林市	羽曳野市	河内長野市	池田市	泉佐野市	貝塚市	摂津市	交野市	泉大津市	柏原市	藤井寺市	泉南市	大阪狭山市	高石市	四條畷市	阪南市	熊取町	島本町	豊能町	忠岡町	河南町	岬町	太子町	能勢町	田尻町	千早赤阪村			
	給水人口 20万人以上										10～20万人							5～10万人							5万人未満																					
ア策定済	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○												○
イ策定中																				○					○	○													○				○	○		
ウ未策定												○	○										○													○	○			○	○					
耐震化数値目標	全管路老朽管率	○	○			○	○	○	○	○	○		○		○	○		○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○		○	○	○								○			
	浄水施設	○	/	◎	○		○	◎	○	/	◎	○		/	/	/	○	○	○						◎	/	◎	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	配水施設		○	○	○	○	○		○	○	◎	○			○	○		○	○	○				○	◎	○		○		◎	○		○	○	○		○									
	基幹管路	○	○	○	○	○	○	○		○	○				○	○	○	○	○	○		○	○		○	○		○		○		○	○	○												

◎耐震化率100%

### 3.2 老朽管の更新に関する状況

市町村計画			今後60年周期で管更新するために必要な管更新率(%)
計画年次	老朽管率(%)	計画期間内年平均管更新率(%)	
全管路	具体的な年次・数値目標は定めていない。		1.67%

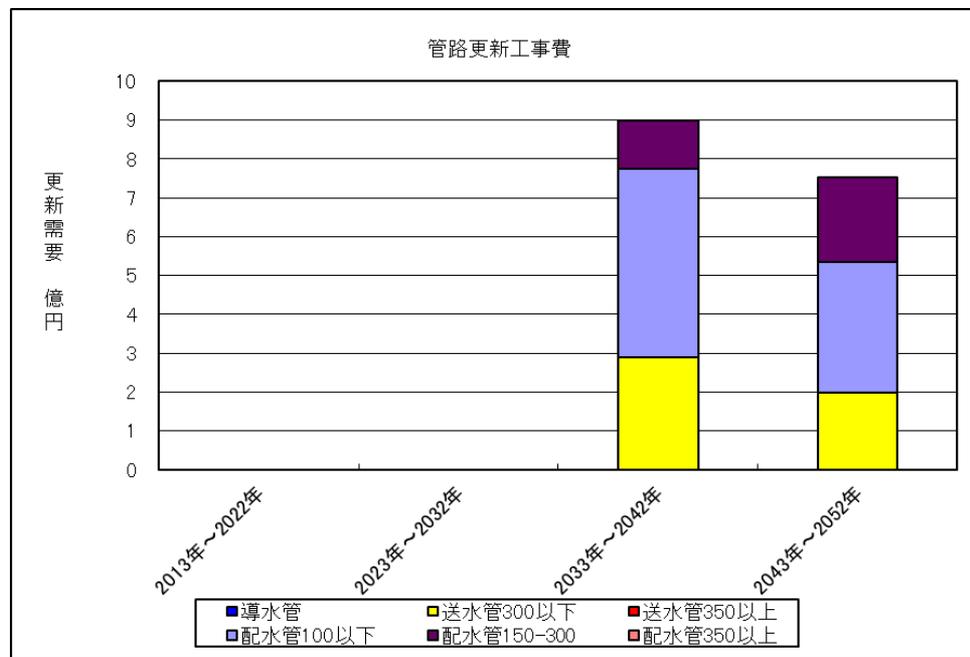
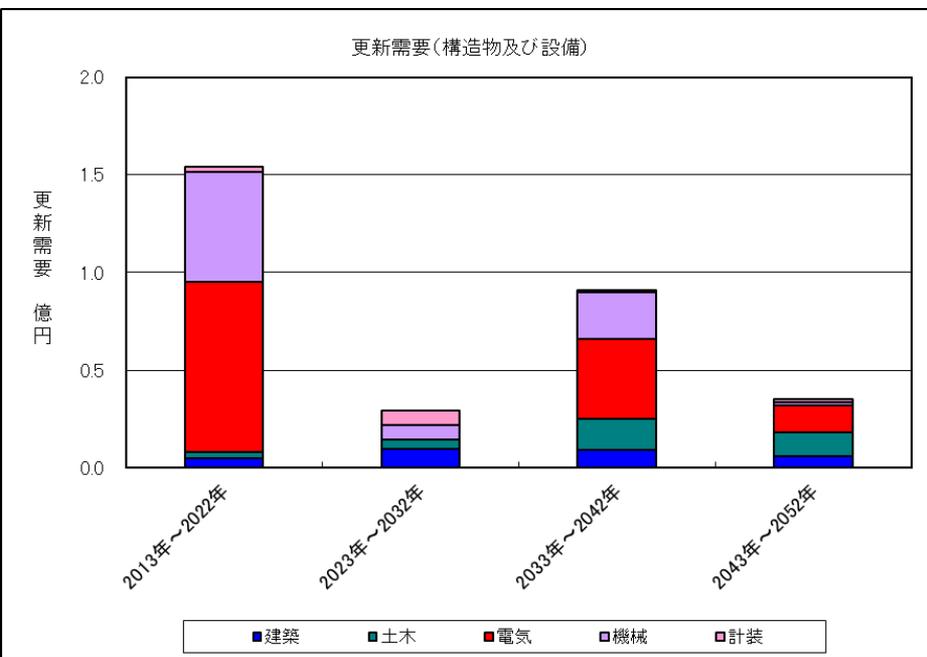
### 3.3 耐震化計画の内容

(大阪広域水道企業団と四條畷市・太子町・千早赤阪村との水道事業の統合に向けての検討、協議統合案(2016年度策定))

市町村目標			(参考)
計画年次	耐震化率(%)	目標数量	2016年度末時点の施設能力等
浄水施設	具体的な年次・数値目標は定めていない。		施設能力 1,590m <sup>3</sup> /日
配水施設			施設容量 6,110 m <sup>3</sup>
基幹管路			総延長 13.0 km

### 3. 4 更新需要見込み額の見通し

【市町村計画】大阪広域水道企業団と四條畷市・太子町・千早赤阪村との  
水道事業の統合に向けての検討、協議統合案(2016年策定)



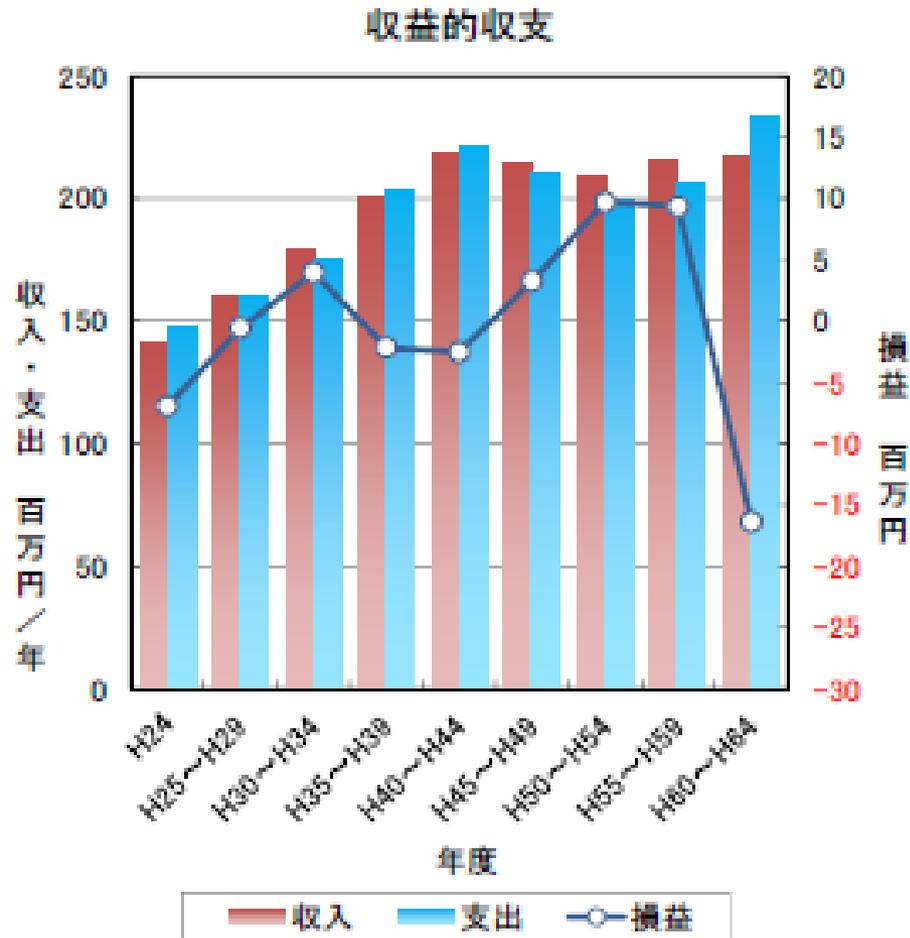
・試算期間(2013年度～2052年度)に必要と見込まれる更新需要の合計額は  
構造物及び設備で約3億円、管路で約17億円、計約20億円  
となる見込みです。(大阪広域水道企業団との統合ケース)

※期間は大阪広域水道企業団での試算状況によります。

### 3.5 収支の見通し

【市町村計画】大阪広域水道企業団と四條畷市・太子町・千早赤阪村との  
水道事業の統合に向けての検討、協議統合案(2016年策定)

(経営シミュレーション 単独経営のケース)

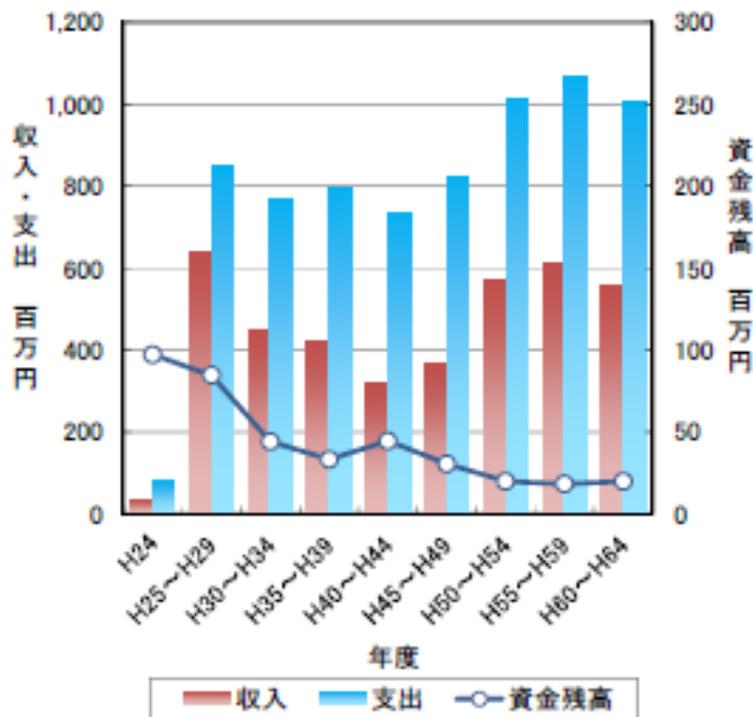


### 3.5 収支の見通し

【市町村計画】大阪広域水道企業団と四條畷市・太子町・千早赤阪村との  
水道事業の統合に向けての検討、協議統合案(2016年策定)

(経営シミュレーション 単独経営のケース)

資本的収支・資金残高



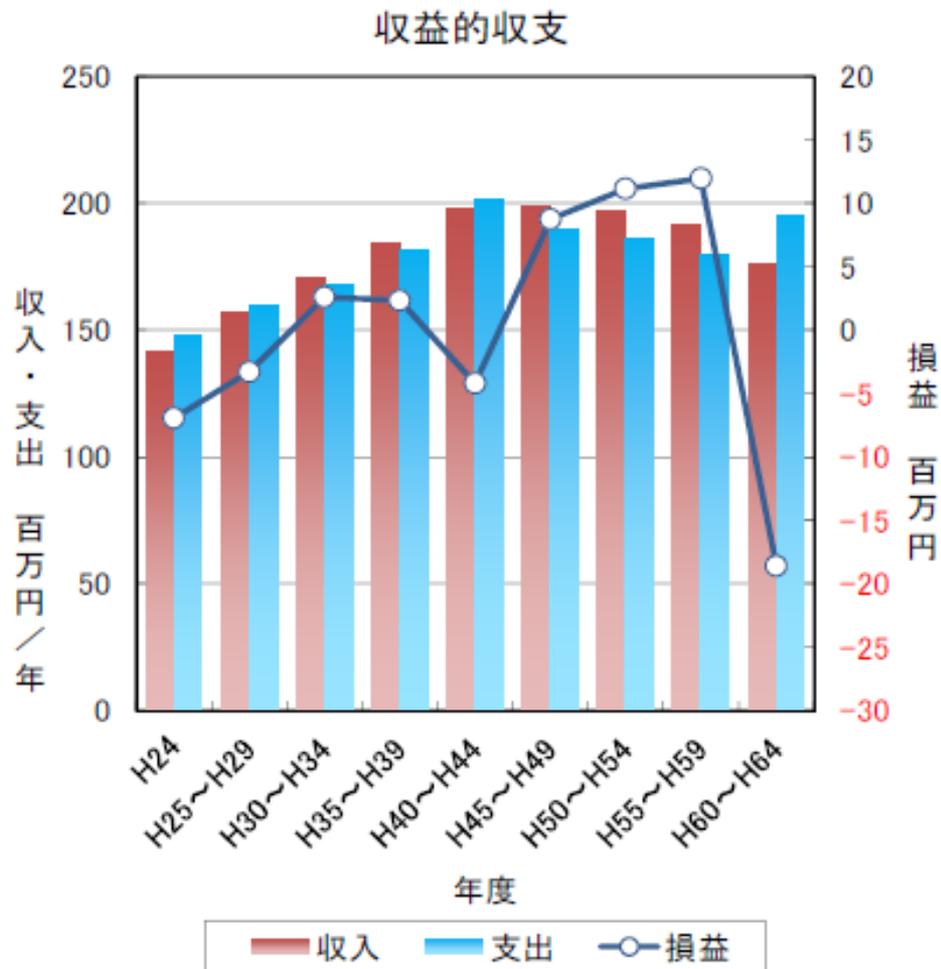
・市単独経営シミュレーション(試算期間2013年度~2052年度)では、2017年度に25%、2022年度に25%、2027年度に25%、2032年度に13%、2037年度に10%、2042年度に15%、2047年度に15%の料金改定が見込まれています。

(2016年度と比べて約3.21倍)

### 3.5 収支の見通し

【市町村計画】大阪広域水道企業団と四條畷市・太子町・千早赤阪村との  
水道事業の統合に向けての検討、協議統合案(2016年策定)

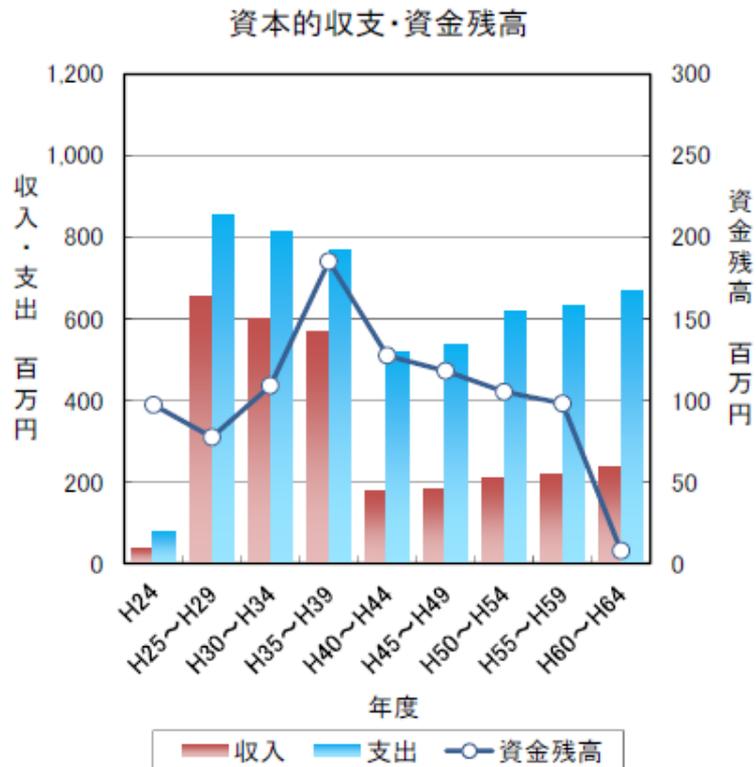
(経営シミュレーション 統合のケース)



### 3.5 収支の見通し

【市町村計画】大阪広域水道企業団と四條畷市・太子町・千早赤阪村との  
水道事業の統合に向けての検討、協議統合案(2016年策定)

(経営シミュレーション 統合のケース)



- ・大阪広域水道企業団と統合した場合のシミュレーション(試算期間2013年度~2052年度)では、2022年度に27%、2027年度に23%、2032年度に17%、2037年度に17%、2042年度に14%、2047年度に1%の料金改定が見込まれています。  
(2016年度と比べて約2.46倍)

## 4 まとめ

### 村の水道管の老朽化の状況は？更新計画は？

#### 千早赤阪村計画

☺ ☹の詳細は、次頁参照

%	2016 年度	計画目標 (目標年度)	府平均	全国平均
			2016 年度	2016 年度
老朽管率	42.0	具体的な年次・数値目標は定めていない。	28.6	14.8
管路更新率	3.16		0.82	0.76
基幹管路の耐震適合率	1.4		41.1	38.7
浄水場の耐震化率	0		4.5	27.9

大阪府で、大阪広域水道企業団との統合シミュレーション結果\*\*を基に、2045 年度の水道料金を試算してみると、・・・

#### 大阪府試算

水道料金 (千早赤阪村)	2016 年度	2045 年度	
	3,448 円		単独経営 およそ
統合 およそ			8,406 円

※一般家庭で1ヶ月に使用する水量を約20m<sup>3</sup>とした場合

**将来、水道料金の値上げは必要です。しかし、統合することで、将来の水道料金の値上げの抑制（値上げ幅の縮小や値上げ時期の延期）が見込まれます。**

## 用いた村の計画

- 大阪広域水道企業団と四條畷市・太子町・千早赤阪村との水道事業の統合に向けての検討、協議統合案（2016年度策定）

## 村計画による老朽管率等の状況「☺」について

- 計画や施設がない場合「－」。
- 老朽管率は、現状より改善する場合「☺」、悪化する場合「☹」。
- 管路更新率は、60年間ですべての水道管を入れ替えられる1.67%を達成する場合「☺」。
- 基幹管路の耐震適合率は、2022年度末目標50%（国指針）を達成する場合「☺」。
- 浄水場耐震化率は、現状より改善もしくは100%のまま推移する場合「☺」。

\*\*平成26年4月に大阪広域水道企業団と「水道事業の統合に向けての検討、協議に関する覚書」を締結し、企業団との統合に向けた検討を行い、とりまとめられた統合案の中に含まれている企業団が行った経営シミュレーションの結果。単独経営するケースと統合するケースでの経営状況をシミュレーションし、将来の水道料金（供給単価）の改定時期、改定率を比較、統合の効果を確認しています。